

読書感想文の書き方の指導に関するヒント

1. どんな本の読み方があるのか。

・ **すじ読み読書** だれが いつ どこで どうした あらすじをつかんでいく読み方

・ **考える読書** いったいなんなんだ、この話は 作者は何を言いたいんだ
これってぎもんだなあ ぼくならこう考えるけど
へーえ、いいこといってるね こんなゆるせない
わたしとにているわ(全然違うわ)なぜそんなことするの
こんなことしたら、つぎがたいへんだよ
様々な思考を繰り返しながら読み進める読み方



毎日の「考える読書」をすることによって、豊かな感想をもつことができる。

2. 「考える読書」をするために、どのような読み方ができるのか。

～こんな本の読み方をしてみましょう。～

- ・ 主人公だけでなく、もっと登場人物すべての気持ちを考えながら読んで見よう
- ・ 話のすじだけでなく、まわりの風景などについてもしっかり目を向けてみよう。
- ・ 自分も作品の世界にとびこんで、作中の人物になったつもりで読もう。
- ・ 自分なりに話の見通しをつけて読みすすめるようにしよう。
- ・ すぐれた文章表現に気をつけて読もう

3. 読書感想文を書くことが苦手な子、好きな子の意識とは。

--- 書くことが嫌い... ---

本を読んだり文章を書いたりするのが面倒だから
本を読んでもあまり感動しないから
感動したことを文章で表すのは難しいから
よい本に巡り会えないから
何をどう書いてよいかわからないから
上手にかかなくてはならないから
コンクールにださなくてはならないから

～よくない感想文への道～

本を読まない
あらすじだけをかく
本をうつして終わりに
する
自分の考えを書かない
最後までかかない

--- 書くことが好き... ---

自分の考えがはっきりまとまるから
読んだ本の記録が残るから
作者の気持ちがよくわかるから
自分も作家になったようで気分がよいから
読みが深まるから
文章を書くのが好きだから
コンクールに出せるから

～本を選ぶことが楽しい～

好きなジャンル
興味のある内容
好きな作家



4. 感想文を書くために必要な「3つの柱」

どんな本か

主人公と登場人物 事件・出来事 はじまりとおわり
だれが どうした 何が どうなった はじめどうで、結局どうなったか

何について書かれているか

作者のいいたいことはなにか 「テーマ」
本のもっている問題 人が生きる上での問題
例) なぜ生まれてきたのか なぜ死ぬのか どうやって生きていけばいいのか
生きるとはどういうことか しなければならないことはなにか
強い・弱いとはどういうことか ころとはなにか
自分とはなにか 本当の自分とはなにか
環境とは(自然 社会 親子 人など)

読んでどう思ったか

意見を書く基本の型(宮川氏による)

こう思う ...まず意見や感想を書く(方言を使ってもよい)
考えが思いつかない人は、次のように考えてみよう。
ぼく(わたし)ににているところを見つける。
わたし(ぼく)だったら...と考える。
よびかけてみる
わからなかったことをしらべてみる
なぜなら ...理由。どうしてそう思うかを書く
たとえば ...例。とにかく例を挙げる
もしも ...仮定。「もしも」に続けておもいつくことを書く。展開
だから ...結論。まとめ。

5. 内容をふくらませるための工夫

- ・本を讀んでの感想だけでなく、その本との出会いや、自分の本の読み方や、読書生活に関することを入れる。
- ・自分と主人公や登場人物をくらべてみたり、友だちと話の中の人物とをくらべてみたりする。
- ・読書感想文を讀んだ人が、その本を知らなくてもおおよそのことがつかめるように、あらかじめ必要に応じて入れる。
- ・人から聞いたこと、話し合ったことなどがあつたら入れる。
- ・自分の体験を入れて書く(ただし、本から離れすぎないように)
- ・テレビや新聞などで報道されていることと関連があれば中にいれて書く。
- ・本を讀んで自分がどのように変わったかを書くようにする。
- ・同じ作者のものや、同じテーマをもった作品とくらべてみる。
- ・作品をいろいろな角度からながめ、いろいろなテーマで「さがす」。
例) いいところをさがす。 へんなところをさがす。
なるほどとおもうことをさがす。 おもしろかったところをさがす。
気になったところ、わかりにくいところをさがす。
にているところをさがす。 きにいらぬところをさがす。

6. 書き出しを魅力的なものにするための工夫

会話や登場人物に呼びかける形で書く。	手紙形式。対話形式
自分が一番に言いたいことをきっぱりした文書で書く。	初発の感動や感想，疑問
この本を取り上げた理由，なぜこの作品を選んだのかについて書く。	本との出会い
文中で一番気に入った文章や，言葉から書き始める。	場面の抜き書き（言葉）
文中で一番心に強く残った会話文から書き始める。	場面の抜き書き（会話）
文中で一番心に強く残った場面から書き始める。	場面の要約
その本の作者について，あるいはすでに読んだことのある同じ作者の作品について書く。	
「もしも」「きっと」「たぶん」「やはり」で自分の考えを述べる。	
自分の体験を丁寧に書き，そのあとテーマにつなげる	
主人公や登場人物になりきって書く	
本を褒めちぎる　なぜなら	
あらすじや主人公の紹介から書く	

7. 感想を豊かなものにするための語彙を使う（使い分ける）工夫

感想の「項目」例について

印象に残ったところは	はらがたったところは
うれしかったところは	かなしかったところは
涙がでそうになったところは	思わず泣いてしまったところは
感心したところは	気に入ったところは
気に入ったせりふは	はらはらしたところは
許せないと思ったところは	よくわからなかったところは
はじめて知ったことは	なるほどと思ったところは

* 感想を持つための視点を提示することで、「何を書いたらいいのか」がわかってくる。

感想ワード（語彙）について

たのしい　おもしろい　感動した　きびしい　つらい　思い
苦しい　腹が立った　どきっ　おそろしい　こわい　ずきん
はっ　こまった　ずるい　なみだ　胸がきゅん　だらしがない
ゆかい　気持ちがいい　痛快　最高　ひやっ　身を乗り出して
さわやか　夢見る気分　シャワー　しゅん

* 「感動した」「おもしろかった」という言葉でまとめるのではなく，感動した内容やおもしろかった内容を，場面に即して一つずつ表現することからはじめると文体そのものの書き方が変わってくる。いろいろな言葉を使うことで，自分の感動があらためてわかってくる。

展開ワード（語彙）について

主人公は　この作者は　わたしだったら　なぜなら　たとえば
もしも　だから　きっと　たぶん　ひょっとしたら　あるいは
べつも見方をすれば

一つのことをじっくり書くことができなくても，つなぎ言葉やきっかけになる言葉を知ることによって次への展開を考えるヒントにすることができるようになる。

8 . 読書感想文の構成例（宮川氏が提案する六つの型）

自分の意見を強く述べたい型

意見	自分はこういいたい
理由	なぜなら だって
例 1	文中の場面やことばを例にする
例 2	自分の体験を例にする
もしも	自分なりの考えを話にあわせて展開する
だから	「だから」でまとめる。

テーマを断定して書きたい型

予想	作者の考えていることは～だと思う
断定	この本のテーマは～だ、と自分の考えを決める
理由	なぜなら～、というのは
だから	作者は～という意見なんだ。
意見	それについて、自分はこう思う。

本の感想を中心にしていきたい型

きっかけ	本との出会いを書く
印象	心に残った場面を書く
例	似たような自分の体験を例にする。
もしも	自分が～だったら
なぜ	登場人物はなぜ～したのだろう。
意見	自分はこう思う

問題を発見、追究していきたい型

選択	本の中の出来事や問題を選ぶ
発見	選んだ内容についてテーマを探す
例	同じテーマの文章を本の中から探す
推理	そのテーマについての作者の意見を書く
意見	テーマについて自分の意見を書く

自分の経験を中心に書いていきたい型

例	自分のことを書く
比較	本の内容と自分のことをくらべたりすりあわせたりする
検討	比較を元にして、作者の考えやテーマについて語る
意見	テーマについての意見を書く ぼくだったら

問題点、疑問点を中心に書いていきたい型

発見	疑問点を洗い出す
理由	なぜ疑問に思うかを書く
仮定	「もしも」の文
証明	「ほらね」の文。問題点を証明する。
対抗意見	「ぼくはこう思う」の文
意見	まとめの意見

9. どうして読書感想文を書くのか。

- ・読書感想文を書くと、自分自身を発見したり、新しい自分を作り出したりすることができる。
- ・読書感想文を書くと、いろいろな本に出会うことができる。
- ・自分の気持ちや感動をかくさず表すことによって、自分の存在を他の人にわかってもらえる。
- ・読書感想文を書いたり、読んだりすることによってよりよい読書ができるようになり、ひいては読書の楽しさがわかるようになる。

書いた人の心や考えや生き方と向かい合うことができる

参考図書一覧

感想文書けちゃった	水野寿美子 著	旺文社	1997
読書かんそう文のじょうずな書き方	松尾谷彌太郎 編著	ポプラ社	1983
読書感想文がラクラク書けちゃう本	宮川俊彦 著	小学館	1999
これできみも読書感想文の名人だ	宮川俊彦 著	三省堂	2000